

令和4年度

十日町地域広域事務組合一般会計・特別会計  
決算審査意見書

十日町地域広域事務組合監査委員

令和4年度十日町地域広域事務組合  
一般会計・特別会計 決算審査意見書

1 審査の対象

- (1) 令和4年度十日町地域広域事務組合一般会計歳入歳出決算
- (2) 令和4年度十日町地域広域事務組合家畜指導診療所特別会計歳入歳出決算
- (3) 財産に関する調書
- (4) 上記に関する証書類

2 審査の実施日

令和5年8月22日(火)

3 審査の方法

審査に付された各会計歳入歳出決算及び財産に関する調書並びに付属書類について、関係帳簿及び証書類を照査検算するとともに、関係職員の説明を聴取して予算の執行状況について調査した。

4 審査の結果(適否等)

各会計の決算及び関係書類等は、いずれも法令及び会計諸規定に準拠して作成されており、計数も正確で、その表示等も適正と認められた。

審査の概要及び意見は、次のとおりである。

## 5 総括

決算総括表（数値は実質収支に関する調書より）

（単位：千円）

区 分		一般会計	家畜指導診療所 特別会計	計
歳入総額	A	1,749,746	51,128	1,800,874
歳出総額	B	1,706,248	44,122	1,750,370
歳入歳出差引額（A－B）	C	43,498	7,006	50,504
翌年度へ繰り越すべき財源	D	0	0	0
実質収支（C－D）	E	43,498	7,006	50,504
前年度実質収支	F	28,968	8,148	37,116
単年度実質収支（E－F）	G	14,530	△1,142	13,388

令和4年度の一般会計と家畜指導診療所特別会計を合わせた決算総額は、歳入18億87万4千円、歳出17億5,037万円、歳入歳出差引額は5,050万4千円となった。翌年度へ繰り越すべき財源はなく、実質収支は5,050万4千円の黒字決算である。

なお、前年度の実質収支額を差し引いた単年度実質収支額は、一般会計では1,453万円の黒字、特別会計は114万2千円の赤字となり、2会計合計で1,338万8千円の黒字となった。

## 6 一般会計

### (1) 歳入

（単位：円・％）

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		1,738,922,000	1,749,745,390	1,749,745,390	100.6	100.0
令和3年度		1,744,685,000	1,761,914,965	1,761,914,965	101.0	100.0
増減	金額	△5,763,000	△12,169,575	△12,169,575	—	—
	率	△0.3	△0.7	△0.7	—	—

収入済額は17億4,974万5千円で、前年度に比べ1,217万円（0.7％）減少した。減少した主なものは、繰越金（1,962万円）である。

## 1 款 分担金及び負担金

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		1,678,557,000	1,678,557,000	1,678,557,000	100.0	100.0
令和3年度		1,672,500,000	1,672,500,000	1,672,500,000	100.0	100.0
増減	金額	6,057,000	6,057,000	6,057,000	—	—
	率	0.4	0.4	0.4	—	—

収入済額は16億7,855万7千円で、前年度に比べ605万7千円(0.4%)増加した。増加した主なものは常備消防費負担金(6,736万4千円)で、高機能消防指令センター機器一部更新工事に係るものである。

減少したものは、十日町ステージに係る大口償還が完了したことによる公債費負担金(6,292万円)である。

## 2 款 使用料及び手数料

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		1,166,000	1,413,200	1,413,200	121.2	100.0
令和3年度		1,271,000	1,312,400	1,312,400	103.3	100.0
増減	金額	△105,000	100,800	100,800	—	—
	率	△8.3	7.7	7.7	—	—

収入済額は141万3千円で、前年度に比べ10万1千円(7.7%)増加した。

## 3 款 県支出金

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		2,135,000	2,135,000	2,135,000	100.0	100.0
令和3年度		2,135,000	2,135,000	2,135,000	100.0	100.0
増減	金額	0	0	0	—	—
	率	0	0	0	—	—

収入済額は213万5千円で、前年度と同額となった。

なお、この県支出金は、十日町ステージ償還金に係る補助金である。

## 4款 財産収入

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		1,301,000	1,720,598	1,720,598	132.3	100.0
令和3年度		101,000	334,955	334,955	331.6	100.0
増減	金額	1,200,000	1,385,643	1,385,643	—	—
	率	1,188.1	413.7	413.7	—	—

収入済額は172万1千円で、前年度に比べ138万6千円(413.7%)増加した。  
増加した主なものは、更新により廃車となった車両の売払い収入である。

## 5款 寄附金

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		60,000	50,000	50,000	83.3	100.0
令和3年度		60,000	50,000	50,000	83.3	100.0
増減	金額	0	0	0	—	—
	率	0	0	0	—	—

収入済額は5万円で、前年度と同額となった。

## 6款 繰越金

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		27,414,000	28,967,818	28,967,818	105.7	100.0
令和3年度		31,678,000	48,584,271	48,584,271	153.4	100.0
増減	金額	△4,264,000	△19,616,453	△19,616,453	—	—
	率	△13.5	△40.4	△40.4	—	—

収入済額は2,896万8千円で、前年度に比べ1,961万6千円(40.4%)減少した。

主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった、令和3年度事業に係る経費や人件費を減額補正したことで不用額が減少し、それに伴って繰越額も減少したものである。

## 7款 諸収入

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		2,789,000	11,401,774	11,401,774	408.8	100.0
令和3年度		3,240,000	3,298,339	3,298,339	101.8	100.0
増減	金額	△451,000	8,103,435	8,103,435	—	—
	率	△13.9	245.7	245.7	—	—

収入済額は1,140万2千円で、前年度に比べ810万3千円(245.7%)増加した。  
増加した主なものは、新潟県派遣職員人件費負担金(901万円)である。

## 8款 組合債

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		25,500,000	25,500,000	25,500,000	100.0	100.0
令和3年度		33,700,000	33,700,000	33,700,000	100.0	100.0
増減	金額	△8,200,000	△8,200,000	△8,200,000	—	—
	率	△24.3	△24.3	△24.3	—	—

収入済額は2,550万円で、前年度に比べ820万円(24.3%)減少した。

減少したものは、高規格救急自動車整備に伴う施設整備事業債(1,450万円)、増加した主なものは、南分署改修工事実施設計委託に伴う緊急防災・減災事業債(120万円)、一般事業債(130万円)である。

## (2) 歳出

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	1,738,922,000	1,706,247,848	98.1	0	32,674,152	
令和3年度	1,744,685,000	1,732,947,147	99.3	0	11,737,853	
増減	金額	△5,763,000	△26,699,299	—	0	20,936,299
	率	△0.3	△1.5	△1.2	0	178.4

支出済額は17億624万8千円で、前年度に比べ2,670万円(1.5%)減少した。

減少した主なものは、十日町ステージに係る大口償還が完了したことによる公債費の減(6,301万円)である。消防施設費が、高機能消防指令センター機器一部更新工事といった大型事業等により6,682万円の増加となったものの、常備・非常備消防費が令和3年度事業との差引きにより3,099万円の減少となったことから、消防費全体で3,583万の増加にとどまった。なお、翌年度に繰り越す事業はない。

不用額の主なものは、引き続きコロナ禍で各種行事等が行われなかったことによる人件費(時間外勤務手当)や消防団員の費用弁償であり、約2,000万円となっている。

## 一般会計の用途別経費の決算状況

(単位:千円・%)

区 分	令和4年度		令和3年度		前年対比	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
人件費	1,012,377	59.3	1,007,390	58.1	4,987	1.2
物件費・維持補修費・扶助費・積立金	153,217	9.0	155,660	9.0	△2,443	0
補助費	62,800	3.7	65,850	3.8	△3,050	△0.1
普通建設事業費	100,480	5.9	63,662	3.7	36,818	2.2
公債費	377,374	22.1	440,385	25.4	△63,011	△3.3
計	1,706,248	100	1,732,947	100.0	△26,699	0

普通建設事業費は、工事請負費が高機能消防指令センター機器一部更新工事などにより6,425万円の増、委託料が南分署改修工事に係る実施設計業務で286万円の増となっているが、備品購入費3,029万円の減により差引き3,681万8千円の増加にとどまっている。

また、公債費は6,301万1千円減少しているが、平成23年度に借り換えた十日町ステージ分と平成28年度に緊急防災・減災事業債で借り入れた十日町市消防団配備の消防車両分の償還の完了によるものである。

## 1 款 議会費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	502,000	470,818	93.8	0	31,182	
令和3年度	529,000	470,920	89.0	0	58,080	
増減	金額	△27,000	△102	—	0	△26,898
	率	△5.1	△0.0	4.8	—	△46.3

支出済額は47万1千円で、ほぼ前年度と同額であった。  
議会費の主なものは、議員報酬及び費用弁償である。

## 2 款 総務費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	27,377,000	26,205,568	95.7	0	1,171,432	
令和3年度	26,657,000	25,722,613	96.5	0	934,387	
増減	金額	720,000	482,955	—	0	237,045
	率	2.7	1.9	△0.8	—	25.4

支出済額は2,620万6千円で、前年度に比べ48万3千円(1.9%)増加した。  
総務費の主なものは、人件費(給料、職員手当等、共済費)、委託料である。

## 3 款 消防費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	1,332,479,000	1,302,197,179	97.7	0	30,281,821	
令和3年度	1,276,015,000	1,266,368,130	99.2	0	9,646,870	
増減	金額	56,464,000	35,829,049	—	0	20,634,951
	率	4.4	2.8	△1.5	0	213.9

支出済額は13億219万7千円で、前年度に比べ3,582万9千円(2.8%)増加した。  
増加した主なものは、消防施設費の高機能消防指令センター機器一部更新工事費(6,264万5千円)、減少した主なものは、非常備消防費の消耗品費(1,468万円5千円)、備品購入費(889万9千円)で、令和3年度での大型事業完了などによるものである。



## 4 款 公債費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	377,564,000	377,374,283	99.9	0	189,717	
令和3年度	440,484,000	440,385,484	100.0	0	98,516	
増減	金額	△62,920,000	△63,011,201	—	0	91,201
	率	△14.3	△14.3	△0.1	—	92.6

支出済額は3億7,737万4千円で、前年度に比べ6,301万1千円(14.3%)減少した。減少した主なものは、平成23年度に借り換えた十日町ステージ分(5,149万1千円)と平成28年度に緊急防災・減災事業債で借り入れた十日町市消防団配備の消防車両分(1,037万円)の償還完了によるものである。

## 5 款 予備費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	充用額	充用率
令和4年度	1,000,000	0	0.0
令和3年度	1,000,000	0	0.0
増減	金額	0	0
	率	0	—

予備費からの充用はなかった。

## 7 家畜指導診療所特別会計

### (1) 歳入

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和4年度	44,860,000	51,127,778	51,127,778	114.0	100.0	
令和3年度	44,260,000	51,761,738	51,761,738	116.9	100.0	
増減	金額	600,000	△633,960	△633,960	—	—
	率	1.4	△1.2	△1.2	—	—

収入済額は5,112万8千円で、前年度に比べ63万4千円(1.2%)減少した。

### 1 款 分担金及び負担金

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和4年度	27,240,000	27,240,000	27,240,000	100.0	100.0	
令和3年度	29,534,000	29,534,000	29,534,000	100.0	100.0	
増減	金額	△2,294,000	△2,294,000	△2,294,000	—	—
	率	△7.8	△7.8	△7.8	—	—

収入済額は2,724万円で、前年度に比べ229万4千円(7.8%)減少した。

### 2 款 使用料及び手数料

(単位:円・%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比	
令和4年度	12,672,000	13,250,980	13,250,980	104.6	100.0	
令和3年度	10,163,000	12,629,100	12,629,100	124.3	100.0	
増減	金額	2,509,000	621,880	621,880	—	—
	率	24.7	4.9	4.9	—	—

収入済額は1,325万1千円で、前年度に比べ62万2千円(4.9%)増加した。

## 3款 繰越金

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		2,560,000	8,147,795	8,147,795	318.3	100.0
令和3年度		1,600,000	7,386,802	7,386,802	461.7	100.0
増減	金額	960,000	760,993	760,993	—	—
	率	60.0	10.3	10.3	—	—

収入済額は814万8千円で、前年度に比べ76万1千円(10.3%)増加した。

## 4款 諸収入

(単位:円・%)

区 分		予算現額	調定額	収入済額	予算対比	調定対比
令和4年度		2,388,000	2,489,003	2,489,003	104.2	100.0
令和3年度		2,963,000	2,211,836	2,211,836	74.6	100.0
増減	金額	△575,000	277,167	277,167	—	—
	率	△19.4	12.5	12.5	—	—

収入済額は248万9千円で、前年度に比べ27万7千円(12.5%)増加した。

諸収入の主なものは、会計年度任用職員人件費負担金(184万9千円)や予防接種剤負担金(24万円)、その他雑入(26万8千円)である。

## (2) 歳出

(単位:円・%)

区 分		予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額
令和4年度		44,860,000	44,121,717	98.4	0	738,283
令和3年度		44,260,000	43,613,943	98.5	0	646,057
増減	金額	600,000	507,774	—	0	92,226
	率	1.4	1.2	△0.1	0	14.3

支出済額4,412万2千円で、前年度に比べ50万8千円(1.2%)増加した。  
翌年度へ繰り越す事業はない。

## 特別会計の用途別経費の決算状況

(単位:千円・%)

区 分	令和4年度		令和3年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
人件費	34,138	77.4	33,901	77.7	237	△0.3
物件費・維持補修費・扶助費・積立金	9,252	20.9	8,999	20.7	253	0.2
補助費	732	1.7	714	1.6	18	0.1
普通建設事業費	0	0	0	0	0	0
公債費	0	0	0	0	0	0
計	44,122	100.0	43,614	100.0	508	0

金額及び支出額全体に対する割合とも前年度とほぼ同じであった。

## 1 款 家畜指導診療所費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	支出済額	執行率	翌年度繰越額	不用額	
令和4年度	44,760,000	44,121,717	98.6	0	638,283	
令和3年度	44,160,000	43,613,943	98.8	0	546,057	
増減	金額	600,000	507,774	—	0	92,226
	率	1.4	1.2	△0.2	—	16.9

支出済額は4,412万2千円で、前年度に比べ50万8千円(1.2%)増加した。

主なものは、人件費(3,446万2千円)と医薬材料費を主とした需用費(639万9千円)である。

## 2 款 予備費

(単位:円・%)

区 分	予算現額	充用額	充用率
令和4年度	100,000	0	0.0
令和3年度	100,000	0	0.0
増減	金額	0	0
	率	0	—

予備費からの充用はなかった。

## 8 基金

(単位:円)

区 分	令和3年度末現在高	増減高	令和4年度末現在高
消防施設整備基金	552,198	50,138	602,336

一般会計予算で5万円(寄附金)を消防施設整備基金へ積み立てた。

## 9 まとめ

令和4年度一般会計の決算状況は、歳入総額 17 億 4,975 万円、歳出総額 17 億 625 万円であった。前年度に比べ、歳入が 1,217 万円、歳出が 2,670 万円と、ともに減少しているが、これは十日町ステージ「キナーレ」に係る大口償還の完了に伴う公債費の減と令和3年度に実施した高規格救急車の購入や消防団員の活動服更新事業といった大型事業との差額が主な理由である。

令和4年度は、高機能消防指令センター機器の一部更新工事が実施された。24 時間 365 日稼働の通信指令システムは消防業務の根幹をなすものであり、機器更新によって一層の消防体制の充実と安定が図られたものと考えられる。

また、消防・救急体制の維持と隊員の安全確保を目的として、リユース式感染防止衣やオゾンガス発生装置を導入した。特に、リユース式感染防止衣の導入は、「使い捨て」のみで対応していた従来に比べ、処分費の節減と感染防止衣自体の在庫確保にもつながり、コロナ禍にあっては非常に有効であった。

消防団関係では、新たに小型ポンプ積載車 2 台を配備した。団員確保が難しい現状において、資機材の小型化による機動力の向上は、今後も重要な課題となろう。


また、出初式などの消防団事業についても、コロナ禍における制約の下、縮小や分散による開催の工夫を凝らし、実施にこぎつけたことは評価できる。今後も、コロナ禍での対応で得られた知見を活かしながら、既存事業のあり方を今一度見つめ直し、消防団員の負担軽減につなげていきたい。

家畜指導診療所の決算状況は、歳入総額 5,113 万円、歳出総額 4,412 万円であり、ほぼ例年どおりの決算となった。

最後に、令和4年度もコロナの第7、第8波と感染拡大の波が押し寄せ、第一線では予断を許さない状況が続いていたものと推察するが、その中で、救急出動件数が過去最高を記録し、高止まりで推移しているのは憂慮する事態である。原因分析とともに救急車の適正利用などの広報もお願いしたい。

コロナ収束に伴い、当地域でも住民の暮らしや価値観に大きな変化が生じていると思われる。消防、診療所ともに、地域住民の安全、安心のため、コロナ禍の経験を糧としつつ、新たな行政需要に対応した業務遂行を期待したい。

令和5年9月6日

監査委員 今出川 景 

監査委員 水落 静子 